

組 番 氏名 _____ / 100点

本文

花は盛りに、月は隈なきをのみ〔①〕見るものかは〔②〕。雨に向かひて月を恋ひ〔③〕、垂れこめて春の行方知らぬも、なほ〔④〕あはれに〔⑤〕情け深し。咲きぬべき〔⑥〕ほどの梢、散りしをれたる庭などこそ見どころ多けれ〔⑦〕。

歌の詞書にも、「花見にまかれりけるに、早く散り過ぎにければ」とも、「障る〔⑧〕ことありてまからで」なども書けるは、「花を見て」と言へるに劣れることかは〔⑨〕。花の散り、月の傾くを慕ふ〔⑩〕習ひはさることなれど、ことに〔⑪〕かたくななる人ぞ、「この枝かの枝散りにけり。今は見どころなし」などは言ふめる。

設問 (全21問)

- 傍線部〔①〕「隈なき」の意味として最も適切なものを次から選び、さらに語の成り立ちもふまえて説明しなさい。
 - ア 物足りない イ かげり (曇り) がない ウ おそろしい エ 名残惜しい
- 傍線部〔②〕「見るものかは」について、次の各問いに答えなさい。
 - (1) 「かは」の文法的な働き (用法) を答えなさい。
 - (2) この一文を、「かは」の働きがはっきり伝わるように現代語訳しなさい。
 - (3) この表現によって、筆者は実際にはどのような考えを述べているか、十五字以内で答えなさい。
- 傍線部〔③〕「雨に向かひて月を恋ひ」を現代語訳しなさい。
- 「垂れこめて春の行方知らぬ」とは、どのような人のどのような様子を述べたものか、わかりやすく説明しなさい。
- 傍線部〔④〕「なほ」の、ここでの意味を答えなさい。
- 傍線部〔⑤〕「あはれに」について、次の各問いに答えなさい。
 - (1) 終止形 (基本形) を答えなさい。
 - (2) ここでの意味として最も適切なものを次から選びなさい。
 - ア こっけいだ イ 気の毒だ ウ しみじみと心打たれる エ いやだ
- 傍線部〔⑥〕「咲きぬべき」について、次の各問いに答えなさい。
 - (1) 「ぬ」「べき」はそれぞれ何の助動詞か、文法的に説明しなさい (終止形・意味)。
 - (2) 「咲きぬべきほどの梢」を現代語訳しなさい。

8. 傍線部〔⑦〕「見どころ多けれ」について、次の各問いに答えなさい。
- (1) 「多けれ」が已然形になっているのはなぜか、文法用語を用いて説明しなさい。
 - (2) その文法上の決まり（語のつながり）の名称を答えなさい。
9. 「咲きぬべきほどの梢、散りしをれたる庭などこそ見どころ多けれ」とあるが、筆者がここで「見どころ多し」としているのは具体的にどのような状態か、二つ挙げなさい。
10. 傍線部〔⑧〕「障る」の意味を答えなさい。
11. 傍線部〔⑨〕『花を見て』と言へるに劣れることかは、「かは」の用法に注意して現代語訳しなさい。
12. 歌の詞書として「早く散り過ぎにければ」「障ることありてまからで」などと書くのは、何が言いたいからか。筆者の主張に即して説明しなさい。
13. 傍線部〔⑩〕「慕ふ」の、ここでの意味を答えなさい。
14. 傍線部〔⑪〕「ことに」の意味を答えなさい。
15. 「かたくななる人」とは、ここではどのような人のことを指すか、本文に即して説明しなさい。
16. 「この枝かの枝散りにけり。今は見どころなし」と言う人を、筆者はどのように評価しているか。本文中の語を用いて答えなさい。
17. この文章全体で、筆者は花や月の鑑賞についてどのような考え方を主張しているか。四十字以内でまとめなさい。
18. この段に表れている、日本古来の美意識に関わる次の問いに答えなさい。
- (1) 完全・盛りのものよりも、不完全なものや滅びゆくものに心ひかれる美意識を表す言葉として最も適切なものを次から選びなさい。
 - ア をかし イ 余情・無常 ウ ますらをぶり エ たをやめぶり
 - (2) 直接描かれていない事柄や、見えないものを思いやることで生まれる味わいを何というか。漢字二字で答えなさい。
19. 『徒然草』について、次の各問いに答えなさい。
- (1) 作者名を答えなさい（出家後の名で答えること）。
 - (2) ジャンル（文学上の種類）を漢字二字で答えなさい。
 - (3) 成立した時代を次から選びなさい。
 - ア 平安時代 イ 鎌倉時代末期 ウ 室町時代中期 エ 江戸時代
20. 『徒然草』は、ある二つの随筆とあわせて「三大随筆」と呼ばれる。残り二つの作品名と、それぞれの作者名を答えなさい。
21. この段の主題をふまえ、「花は盛りに、月は隈なきをのみ見るものかは」という一文が、文章全体の中で果たしている役割を説明しなさい。

